

# 横手湯田IV遺跡

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



## 序

前橋市は、雄大な裾野をひいてそびえる赤城山を北方に望み、市域を利根川が豊かな水を湛え貢流する群馬の県都であります。当、横手湯田IV遺跡は、辺り一面に広がる畠の麦が春の日差しを受け、より一層緑色を深めている自然環境に恵まれた前橋台地の南東端に位置する鶴光路町にあります。近年、北関東自動車道の本線部分、主要地方道前橋長野線の改良工事などでこの地域は急速に交通網の整備が進められています。

発掘調査は、都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に先がけ道路部分87m<sup>2</sup>を実施したものであります。

調査では、1108年に噴火した浅間山の火山灰で覆われた水田面と人間の足跡と思われるものも幾つか検出されました。残念ながら調査範囲が狭小のため畦畔の検出がなく、周辺の遺跡で検出されている水田址とのつながりや古代国家の基本的な土地区画である「条里制」にかかわる資料を得ることができませんでした。今後隣接する調査が進むにつれて、本遺跡に畦畔が検出されなかった理由が明らかとなってくるに違いありません。

本調査が速やかに実施できたことは、関係各機関並びに本遺跡周辺地域の方々のご理解ご協力があったからこそと考えております。本書の刊行にあたり厚く感謝を申し上げます。

平成10年3月25日

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 中西誠一



## 例　　言

- 1 本報告書は、平成9年度都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う横手湯田IV遺跡発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地  
群馬県前橋市鶴光町67-3番地
- 3 調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長 中西誠一）の指導のもとに、スナガ環境測設株式会社（代表取締役 須永眞弘）が実施した。  
調査担当者 井野誠一・宮内 節（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）  
荻野博巳（スナガ環境測設株式会社）
- 4 発掘調査・整理期間 平成10年3月18日～平成10年3月25日
- 5 調査面積 87m<sup>2</sup>
- 6 出土遺物は前橋市教育委員会が保管する。
- 7 測量・調査計画…須永眞弘、調査担当…荻野博巳、測量・実測…勝田貞幸、写真撮影…荻野博巳、安全管理（発掘重機オペレーター）…都丸保男、作業事務…柴崎信江が担当した。
- 8 本書は、調査団の指導のもと、スナガ環境測設株式会社が作成に当たり、原稿執筆を荻野博巳・勝田貞幸、編集・校正…須永眞弘・金子正人・新保一美、実測図の整理・文章の清書…勝田貞幸、内業事務…須永豊・柴崎信江が担当した。
- 9 発掘調査に参加した方々（順不同）  
中川住一 石田みよ子 今井つる 狩野宮子 小林ひろ 斎藤ミヨ子 高橋あき子 根井よし子

## 凡　　例

- 1 本遺跡の略称は9G25である。
- 2 実測図の縮尺 遺跡周辺現形図1/500、遺跡平面図1/80
- 3 押入図 國土地理院発行の2万5千分の1「前橋」「高崎」を使用した。
- 4 遺跡の位置の基準 國土地理院三角点及び水準点を照合済。  
基準点 B-0 地点 第IX系座標値 X36940.000m Y-66040.000m  
水準点 BM. 78.800m 等高線5cm グリッド4m間隔
- 5 土層断面の土色名は『新版標準土色帖』（農林省農林水産技術会議事務局 監修 財團法人 日本色彩研究所色票監修）による。
- 6 土層注記及び本文中にはAs：浅間山、Hr：榛名山の略称を使用した。
- 7 遺構確認トレンチ部分と基本土層断面図中に点描のスクリーントーンを使用した。

# 目 次

序  
例 言  
凡 例  
目 次

|                   |   |
|-------------------|---|
| I 調査に至る経緯         | 1 |
| II 遺跡の位置と歴史的環境    | 1 |
| 1. 遺跡の立地          | 1 |
| 2. 歴史的環境          | 1 |
| III 調査の経過         | 3 |
| 1. 調査方針           | 3 |
| 2. 調査経過           | 3 |
| IV 層序             | 3 |
| V 検出された遺構         | 5 |
| 1. 概観             | 5 |
| 2. As-B層下の確認面について | 5 |
| 3. 下層の遺構確認状況について  | 5 |
| VI まとめ            | 5 |

## 挿 図

|                   |   |           |   |
|-------------------|---|-----------|---|
| 第1図 遺跡の位置と周辺遺跡図   | 2 | 第4図 遺跡平面図 | 6 |
| 第2図 基本土層断面図       | 3 |           |   |
| 第3図 横手湯田IV遺跡周辺現況図 | 4 |           |   |

## 写 真 版

図版1 調査前現況、遺跡全景、As-B軽石堆積状況、北壁土層断面、足跡検出状況、遺構確認トレンチ北壁土層断面

## I 調査に至る経緯

都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴い、北関東自動車道対策室より前橋市教育委員会に埋蔵文化財発掘調査依頼が提出された。調査対象地の南側には、北関東自動車道の本線工事が実施されており、これに先行して群馬県埋蔵文化財調査事業団による発掘調査が実施され、古墳時代から平安時代の遺構などが検出されている。また平成8年度に実施された下川瀬公民館予定地の鶴光路線引遺跡では、浅間B軽石下の水田址などが検出されている。さらに鶴光路町は前橋市南部の条里想定域に位置することもあり、このことを踏まえて協議・調整のうえ、道路改良事業部分の発掘調査・記録保存を実施することになった。

発掘調査は工事行程の関係上から、前橋市埋蔵文化財発掘調査団の直営事業として行なうことが困難と判断されたため、民間調査機関（スナガ環境測設株式会社）と委託契約を締結し、調査団の指導、立会のもと調査を実施した。

## II 遺跡の位置と歴史的環境

### 1. 遺跡の立地

本遺跡はJR前橋駅から南へ約5.8kmにある。関越自動車道高崎インターから県道27号線（高崎駒形線）を東へ3km程進み、県道11号線（前橋玉村線）の亀里町の交差点を右折して1km程南に前橋市立下川瀬小学校がある。小学校の南、150m程に本遺跡がある。当遺跡周辺では、北関東自動車道の橋脚工事などが進められている。

前橋市の地形は、北東部の赤城火山斜面、南西部の洪積台地（前橋台地）と、この両者に挟まれるように位置する沖積低地（広瀬川低地帯）の三地域に分けられる。本遺跡は、そのうちの前橋台地南東端の後背湿地地上に位置し、標高79m程で平らな田園風景が広がる場所にある。西方約1.5kmには南流する利根川が弧を描いて、流れの向きを東へと移している。また東側約0.8kmには一級河川端気川が南流し、佐波郡玉村町との市町境を為し利根川と合流している。

### 2. 歴史的環境

本遺跡の所在する前橋台地周辺は、1970年代から1980年代にかけて上越新幹線や関越自動車道の建設に伴う発掘調査で古代水田址が確認されている。現在も北関東自動車道の本線及び側道部分や主要地方道前橋長畠バイパスの改良工事等に先立って行われている発掘調査で、貴重な遺構・遺物が検出され、多くの資料が蓄積されつつある。また、本遺跡の所在する鶴光路町付近一帯は、条里水田の復元を目的とした平安時代水田址の調査が活発に行なわれてきている。本遺跡地北西の公田町には三公田、さらにその北の南町には市之坪、一町田といった地名が残り、これらは条里制にかかる名残とみられている。

ここで本遺跡(1)周辺で水田址が検出されている主な遺跡を挙げてみたい。まずAs-B軽石（浅間B軽石：1108年降下）層で覆われた平安時代の水田址では、鶴光路線引遺跡(2)、横手宮田遺跡(3)、井戸南遺跡(4)、西田遺跡(5)、宮地中田遺跡(6)、公田池尻遺跡(7)、公田東遺跡(8)、後閑II遺跡(9)など他にも数多く検出されている。また古墳時代では、Hr-FA（榛名二ツ岳渋川テフラ：6世紀初頭）下の水田では、公田東遺跡、公田池尻遺跡など小区画の水田址が検出されている。As-C軽石（浅間C軽石：4世紀中葉）下水田址は、公田池尻遺跡で検出されている。



第1図 遺跡の位置と周辺遺跡図

### III 調査の経過

#### 1. 調査方針

調査区の設定は、公共座標に基づき、東西方向に延びる緯線に直交する経線に算用数字で、南北方向に延びる経線に直交する緯線にアルファベットで付称して、4m毎にグリッドを設定した。グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。また水準は公共水準点に基づき調査区内に測設した。図面作成は1/40、1/500の縮尺を使用し、平板・造形による細部測量で作図を行った。また遺構・遺物等の写真撮影（白黒・リバーサルフィルム）も行った。

#### 2. 調査経過

平成10年3月19日より資材・重機類の搬入、休憩所・仮設トイレを設置すると同時に、調査区の東側の道路が下川淵小学校の通学路であるため、調査区外周に防護ネットを張り安全対策を行った。市調査団の指導のもと重機による表土掘削と並行してAs-B軽石の除去及び精査を行った。As-B軽石下面の精査終了後サブトレンチによる下層の遺構確認調査も実施した。また掘削土を置き場へ運搬する際、道路横断時に交通整理員を掛け、事故の発生の無いよう努めた。

平成10年3月19日 資材・重機搬入、休憩所・仮設トイレ設置、安全対策用ネット張り

3月20日 重機表土掘削開始・遺構確認精査

3月23日 基準点及び水準取付け測量、As-B軽石下の人力精査

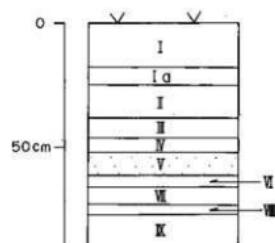
3月24日 遺跡全景写真撮影、遺構平面・断面実測

3月25日 下層の遺構確認の為トレンチを入れる、現況平面測量

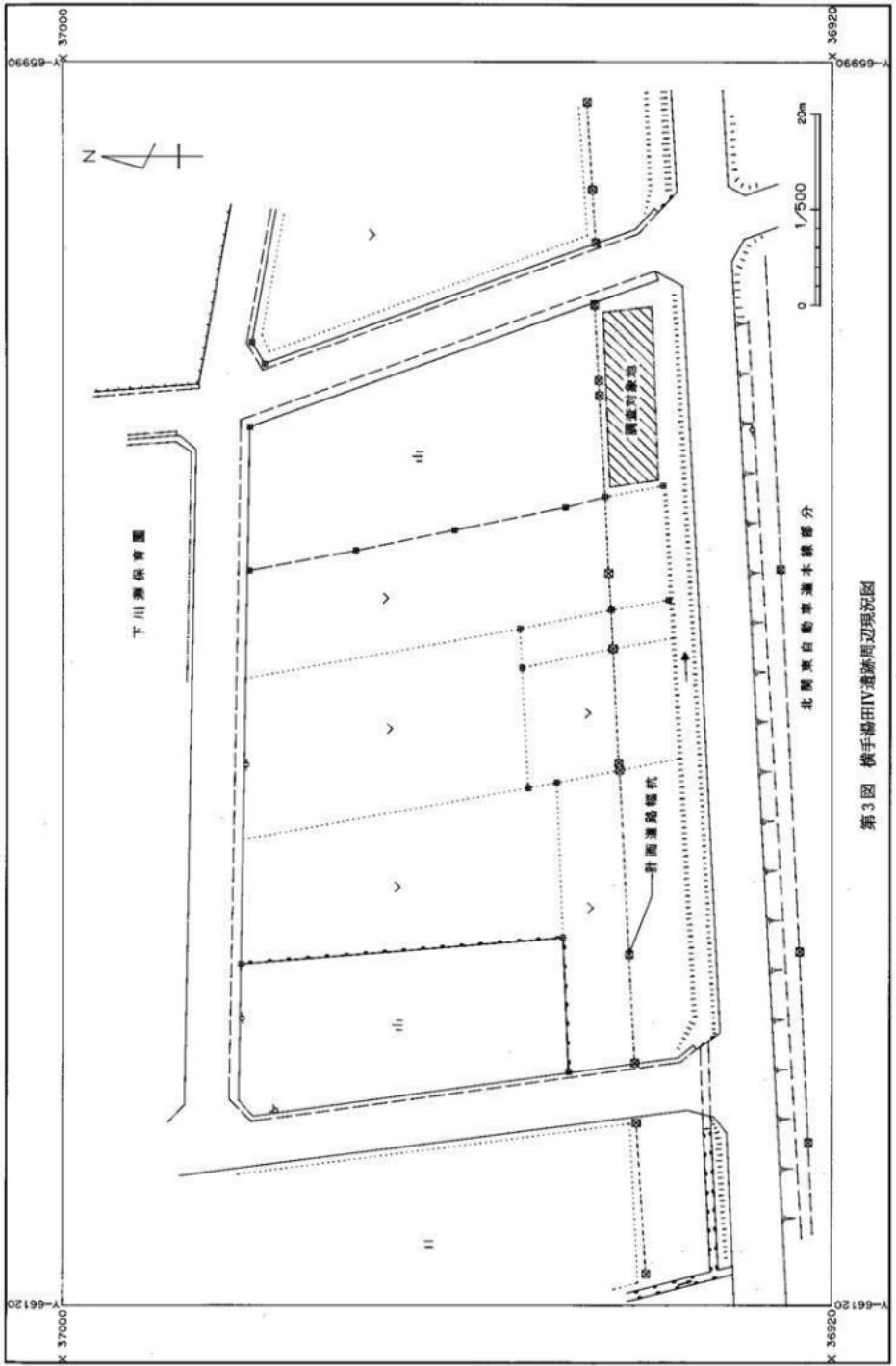
同日埋戻し、資材類撤収

### IV 層序

- I 暗褐色土層 粘性・締まりややあり 軽石粒を含む（現耕作土）  
I a 暗褐色土層 粘性・締まりあり 黄色砂質土を含む  
II 褐灰色土層 粘性・締まりあり 白色軽石粒を多く含む  
III 褐灰色粘質土層 酸化鉄により黄褐色味を帯びる  
IV 黄褐色砂質土層 酸化鉄によりやや赤褐色味を帯びる  
V As-B層（浅間B軽石） ラミナ状に堆積し鉄分の凝縮と酸化層が重なって見られる  
VI 黒色粘質土層 水田耕土とAs-B軽石の混土層  
VII 灰色粘質土層 橙色した植物の斑紋が入りやや細砂が混じる  
VIII 灰色粘質土層 橙色した植物の斑紋が入る VII層より暗い  
IX 灰色粘質土層 VII層より明るく土粒子が密 この層の上位にHr-FAブロックが所々に見られる



第2図 基本土層断面図



第3図 横手橋IV過跡周辺現況図

## V 検出された遺構

### 1. 観察

調査ではAs-B軽石下より水田耕土と思われる面が検出されたが耕作機械によるカクランなどが入り、状態は良くなかった。また畦畔の検出ではなく、人間の足跡と思われる履みが一部と性格不明の小穴が検出されたのみであった。遺物も検出されなかった。

### 2. As-B軽石層下の確認面について

表土より掘り下げること40~45cm程でAs-B軽石層が厚さ5~10cmで堆積している状況が確認できた。そのAs-B軽石を取り除いた下に白色の軽石を含む黒色粘土層の面を検出した。標高は78.05m前後でほとんど平坦である。この面には大きさ20~25cm・深さ3~5cm程の人間のものと思われる足跡が、主に調査区東寄りと中央付近に幾つか見られたが、一連性がないのに加えて、各足跡もそれぞれ異なる方向を向いている状態であった。また径5~10cm位で、深さ3~5cm程の小穴が調査区内の各所に点在していたが、その性格は不明である。

### 3. 下層の遺構確認の状況について

As-B軽石層下面の調査終了後、下層の遺構の有無を判断するために、調査区の北西隅より長さ約10m、幅1m、深さ20~30cmのトレンチを入れて遺構確認作業を行った。その結果、Hr-FA(株名二ツ岳起源:6世紀初頭)のブロック状のものは見られたが層として見られず、Hr-FA直下の土層を見ても暗い灰褐色土層中に植物の斑文が見られただけでこの時期の水田遺構や他の遺構は検出されなかった。またHr-FP(株名二ツ岳起源:6世紀中葉)及びAs-C軽石(浅間山起源:4世紀中頃)時期の遺構確認においても同様に遺構の検出には至らなかった。

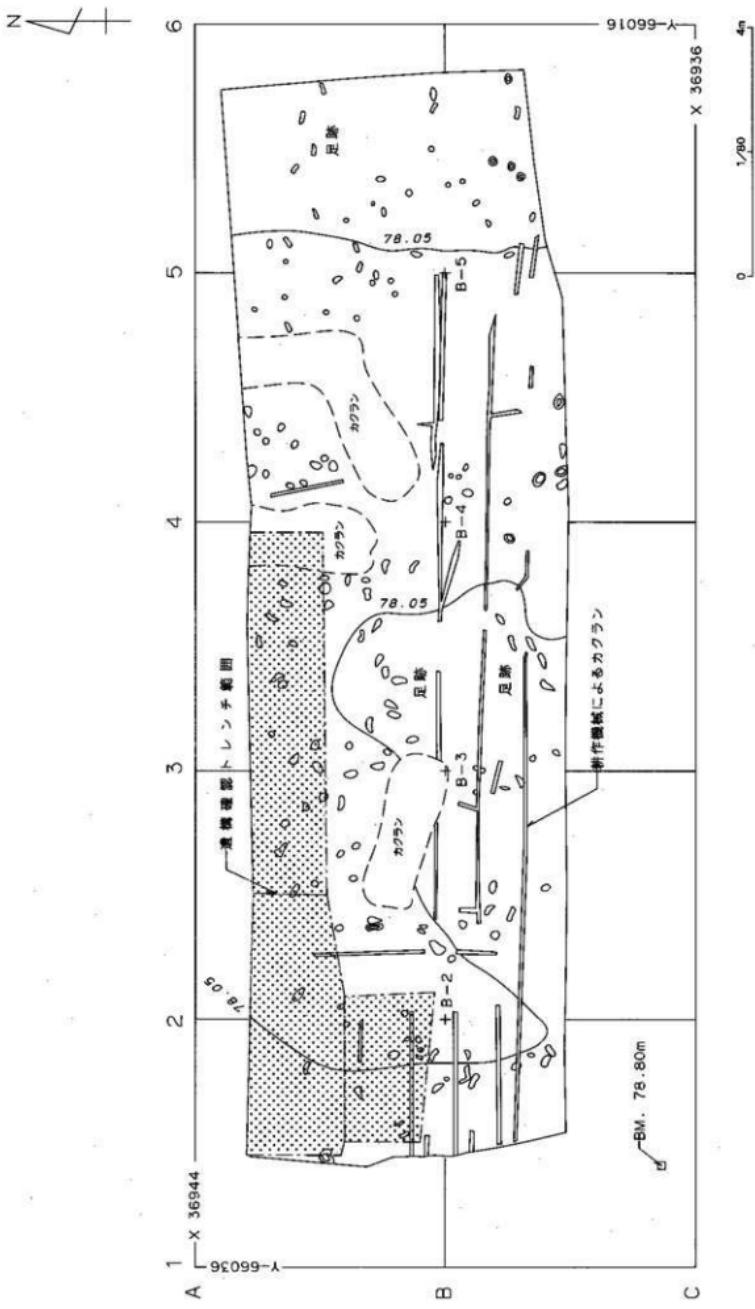
## VI まとめ

本遺跡において調査区が87m<sup>2</sup>と狭小なこと、畦畔が検出されなかったこと、近年の耕作機械などによる筋状のカクラン等により水田址であったのか定かではない。しかし水田耕土としては黒色の粘質土で土壤がよく、そのまま下に灰褐色粘土層があって保水性も良好であった。さらに本遺跡西側の鶴光路線引違跡をはじめ、既に調査が行われた各遺跡のデータにおいても、この地域の広範囲に同時期の水田が営まれていたことがうかがえる。以上のことからも本遺跡で検出されたAs-B軽石直下の面が水田の耕土面として利用されていた可能性は高いとみられる。残念ながら今回の発掘調査では条里制に関する区画・区割りの資料となる畦畔の検出には至らなかったが、本遺跡内に検出されなかったことも一つの要素として、今後近隣の発掘調査が進むにつれて、条里制の土地区割が明確になっていくことであろう。

## 参考文献

- 中原遺跡群IV 1995 前橋市埋蔵文化財発掘調査  
中原遺跡群III・V・VII 1996 //  
水田の考古学 1991.10初版 工業普通 著 財團法人 東京大学出版会  
鶴光路線引違跡 1997 前橋市埋蔵文化財発掘調査  
六供下堂木II遺跡 1997 //  
宮地中田遺跡 1997 //

第4図 通跡平面図





調査前現況



遺跡全景



遺跡全景（東より撮影）



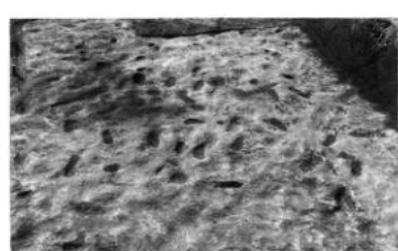
遺跡全景（西より撮影）



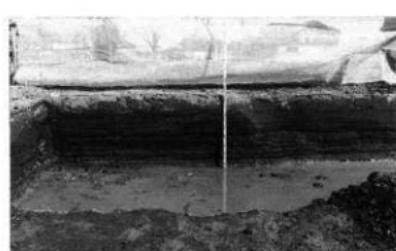
As-B軽石堆積状況



調査区北壁土層断面



A-5グリッド付近足跡検出状況



遺構確認トレンチ北壁土層断面

## 抄 錄

|         |                                   |  |  |  |  |  |
|---------|-----------------------------------|--|--|--|--|--|
| フリガナ    | ヨコテユデンヨンイセキ                       |  |  |  |  |  |
| 書名      | 横手湯田IV遺跡                          |  |  |  |  |  |
| 副書名     | 都市計画道路横手鶴光路線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |  |  |  |  |  |
| 編著者名    | スナガ環境測設株式会社 萩野博巳                  |  |  |  |  |  |
| 編集機関    | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団                     |  |  |  |  |  |
| 編集機関所在地 | 〒371-0007 群馬県前橋市上泉町664番地の4        |  |  |  |  |  |
| 発行年月日   | 西暦1998年3月25日                      |  |  |  |  |  |

| フリガナ<br>所収遺跡名           | フリガナ<br>所在地 | コード   |        | 位置        |            | 調査期間                 | 調査面積             | 調査原因                       |
|-------------------------|-------------|-------|--------|-----------|------------|----------------------|------------------|----------------------------|
|                         |             | 市町村   | 遺跡番号   | 北緯        | 東経         |                      |                  |                            |
| ヨコテユデンヨンイセキ<br>横手湯田IV遺跡 | 前橋市鶴光路町     | 10201 | 9 G 25 | 36°19'51" | 139°05'52" | 19980318<br>19980325 | 87m <sup>2</sup> | 都市計画道路横手<br>鶴光路線道路改良<br>事業 |

| 所収遺跡名    | 種別          | 主な時代 | 主な遺構      | 主な遺物 |
|----------|-------------|------|-----------|------|
| 横手湯田IV遺跡 | As-B層下水田耕土面 | 平安時代 | 水田址・人間の足跡 | なし   |



### 横手湯田IV遺跡

1998年3月23日 印刷

1998年3月25日 発行

発行 前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市上泉町664番地の4

編集 スナガ環境測設株式会社  
前橋市青柳町211番地の1



